

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 74号

2013/11/18 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：不安定な相場。週後半に向けて供給逼迫感も影響して相場上昇した。

①週最高：3月 LDN 市場 £ 1,740 /12月 NY 市場 \$2,730 (11/15) 先週比 **LDN + £ 2 / NY - \$15**
②週最低：3月 LDN 市場 £ 1,665 /12月 NY 市場 \$2,601 (11/11) 先週比 **LDN - £ 31 / NY + \$ 53**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £ 75 (傾向↑) / NY 市場 \$129 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN 市場 236,786 枚(11/8 終了時)⇒237,263 枚 (11/14 終了時) **+477 枚**
NY 市場 212,137 枚(11/8 終了時)⇒200,051 枚 (11/14 終了時) **-12,086 枚**

【11月11日(月)】両市場とも大幅続落

ロンドン、ニューヨーク両市場とも大幅続落した。米商品先物取引委員会(CFTC)の取組高報告で、投機筋の買い越しが2006年の統計開始以降で最大になっていることが材料視された。

ロンドン市場の3月きりは43ポンド(2.5%)安の**1665ポンド**で終了。ニューヨーク市場の3月きりは70ドル(2.6%)安の**2601ドル**で引けた。あるブローカーは「CFTCの数字を受けて、市場参加者は慎重になった」と指摘した。

【11月12日(火)】両市場とも反発=供給逼迫観測に

ロンドン、ニューヨーク両市場ともに反発して終了。供給逼迫(ひっぱく)観測に押し上げられた。ニューヨーク市場の3月きりは21ドル(0.8%)高の2622ドルで取引を終えた。収穫期の売り圧力や西アフリカの良好な天候予想に押されたが、切り返した。プライス・フューチャーズ・グループのジャック・スコビル氏は「この水準で下値を試すと、いつも反発して高値を更新する」と指摘した。ロンドン市場の3月きりは23ポンド(1.4%)高の1688ポンドで引けた。

【11月13日(水)】両市場とも続伸

両市場とも続伸。
ニューヨーク市場の3月きりは、43ドル(1.6%)高の2665ドルで引けた。テクニカルな買いが入り、取引終盤には一時2.7%上昇した。

ストップロス注文からこの数日間は大きくしゃくした値動きとなっており、前日には2番ざりが6週間ぶり安値を付けた。

欧州のアナリストは最近のボラティリティーについて「全ては投機筋のポジション維持と産業筋による押し目買いに起因するものだ」と述べた。

ロンドン市場の3月きりは20ポンド（1.2%）高の1708ポンドで終了。

【11月14日（木）】両市場とも3日続伸

両市場とも3日続伸。

ニューヨーク市場の3月きりは序盤の下げから反転し、15ドル（0.6%）高の2680ドルで引けた。投機筋が売り買い双方でそれぞれのポジションを維持したことが背景。

ココアのバイヤーらは、最大生産地であるコートジボワールの農家に対し、政府が保証する最低価格を上回る金額を支払ってカカオ豆の確保に走っている。欧州のトレーダーらの間で供給懸念が広がり、需要が拡大しているため。

2番ざりが10月下旬に一時、2年ぶり高値となる2775ドルを付けた後は、相場の下落が買いを誘っている。

ロンドン市場の3月きりは3ポンド（0.2%）高の1711ポンドで取引を終えた。

【11月15日（金）】4日続伸

ココア先物は4日続伸。ニューヨーク市場の3月きりは、50ドル（1.9%）高の2730ドルで引けた。供給不足懸念を背景に、序盤の安値から切り返した。エコバンクのソフトコモディティー調査責任者、エドワード・ジョージ氏は「シーズン初め以降、西アフリカにおける天候見通しは改善してきた。市場における懸念も一部後退した」と話した。

ロンドン市場の3月きりは、29ポンド（1.7%）高の1740ポンドで引けた。

2、弊社プロジェクト）カメルーンでのカカオ生産者の指導プロジェクト進行中

現在、弊社ではカメルーンにおいて品質の良いカカオのみを安定供給する為のプロジェクトを進行させております。

カメルーン産カカオの場合は、フルーツとしてではなく、ポストハーベットの部分に特に降雨量が多い産地が多く、発酵・乾燥工程に焦点を絞って品質改善を行っております。特にスモーキー臭ビーンズの発生要因となる火を使った乾燥を行わずに天日干しを行ったカカオ豆のみを調達することを目的としています。

今回はそのプロジェクトの様子について、ご報告いたします。



プロジェクトの地域は、**SOUTHWEST** と呼ばれる地域で Douala より車で 2-3 時間の距離にあります。

*地図内の A の付近

【品質に対する知識の習得のトレーニング】



今回、弊社がプロジェクトを行っているパートナーの生産者組合の 7 つの地区より其々の代表農家がトレーニングを受けました。

まず、スモーキービーンズの発見の仕方、スモーキービーンズとは何なのかを現地で代表的な品質保証機関に協力頂き指導致しました。



完全な天日干しの良い状態のものと、スモーキービーンズの可能性のあるものを用意し、

- ①ミキサーでカカオ豆を粉砕
- ②カップに湧いたお湯を注ぎ、粉砕したカカオをお湯に溶かし、かき混ぜる
- ③カップのにおいを注意深く確認し、スモーク臭がするかしらないかで判断する。



この品質検査を生産者組合と共に弊社プロジェクト倉庫で実施し、スモーキービーンズ以外のカカオ豆のみを検査後、在庫していく手法で進めています。

左の写真は倉庫の中と外観です。アフリカでは倉庫に物を入れても、そこで安心ではない為、警備会社を雇って在庫の安全性を確保します。



このプロジェクトの生産者組合は天日干しが推奨されており、このように天日干しが行われています。しかしながら3月以降は雨期に入る為、どうしても乾燥が甘くなる傾向があります。

その時期に向けて屋根付きで晴れている時間には十分な熱が確保できるようなビニールハウス乾燥台の設置を計画しています。



***本プロジェクトの詳細についてのご質問等ございましたら別途お問合せ頂ければと存じます。**

3、カメルーン産カカオ南西部での農家出荷価格が下落(11/16)

カメルーン、南西部産のカカオの農家出荷価格が同国の中部や他の主要なカカオ生産地域と比較し 11%程度まで下落している。

この南西部と中部で世界第5位の生産数量であるカメルーン産カカオの約 80%を占めるが、この2つの地域の価格の差は“変わりやすく不安定な降雨”によって生じていると農家は説明している。

カカオの流通の主要なセンターとなっている南西部の Kumaba では、農家集荷価格は1キロ当たり、980 CFA francs (≒\$2.01)から 995 CFA francs (\$2.04) となっているとカメルーンマーケティングカンパニー(CAMACO)の Joseph Nde, マネージャーは言う。

10月の同地域の価格は 1,075 CFA francs (\$2.21)であった。

『まだ雨はかなり降っているので、農家にとってはこの価格でも良い方だ。農家からカカオを買い付ける仲買人の方が乾燥の為に必要な良いオープン（乾燥機）を所有しているから、農家は不十分な乾燥のまま販売出来る』彼は説明する。

価格の下落が中部地域に比べて 11%と もっとも大きかったのは、Mbonge 地区でこの周辺は非常に道路の状況が良くない地域であると彼は付け加えた。

しかしながら、道路はほぼ舗装され、日照時間が長く、雨の少ない中西部においても、農家出荷価格の上昇は僅かだったと中西部の Emana 地区のカカオ生産者組合のリーダーである Emmanuel Nnogo Akolo は言う。同地域での価格は 1,075 CFA francs (≒\$2.21)であった。

カメルーンのカカオシーズンは 8月1日から 7月31日の期間で区切られており、メインクロップは 10月から 1-2月まで、ライトクロップは 4-5月から 7月の期間である。

下記は、10月から 11月のカメルーンの全地域の平均的な農家集荷価格を纏めたものである。

地域	地区	11月価格	10月価格	単位：CFA/キロ当たり
南西部	Mamfe	950	1,000	
	Konye	965	1,035	
	Mbonge	940	1,050	
	Muyuka	970	1,050	
	Kumba	980-995	1,075	
中部	Bafia	1,085	1,065	
	Emana	1,075	1,050	
	Mbalmayo	1,030	1,000	
南部	Ebolowa	970	975-1,000	
	Sangmelima	975	1,000	
東部	Bertoua	775-800	875	
	Yokadouma	680-700	800	

4、コートジボワールのカカオ豆、好天で高品質に＝今後は乾燥を警戒―農家筋(11/12)

コートジボワールのカカオ豆農家とアナリストらは11日、同国のカカオ豆生産地は気象状況に恵まれ、収穫物の品質は、少なくとも年内までは良好だとの予想を明らかにした。大雨と豊富な日照が豆の生育と乾燥に寄与するという。

2013～14年度（13年10月～14年9月）は先月、豪雨の影響で黒サヤ病が拡大し、品質が打撃を受けるとの懸念の中、始まった。

さらに、12月から始まる乾期についても、昨年同様厳しくなるとの懸念が浮上。収量に対する懸念も高まっていた。

東部アベングルでは2週間大雨が続いた後、雨がやんだ。付近のある農家は「日照時間に恵まれた。たくさんのカカオ豆を収穫できるだろう」と述べ、「品質が心配だったが、これまでのところ問題はない。豆は高品質でバイヤーも喜んでいる」と指摘した。

西部ソンプレも先週まで2週間、十分な降水に恵まれた。同地の農家は、小さなサヤはまだ生育中だとし、「収穫も最盛期を迎えている。12月末までの収穫物の品質は保証された」と述べた。一方、西部ガノアの農家は「現在での雨量は適切だ。ただし、メイン・クロップの収穫はこれからの乾燥期次第だ。もし12月の乾燥天候が長引けば、1月からの収穫物の品質に影響が出る」と懸念を示した。

5、欧州のカカオ需要家のカカオ供給不足懸念によりコートジのカカオ価格が上昇(11/15)

世界最大のカカオ生産国であるコートジボワールでは、欧州のトレーダー筋が今後の供給不足を懸念した買付け需要が強い事で、同国内カカオの買付け人は政府が設定した農家への最低保証価を大きく上回る価格で農家からカカオを買い付けている状況であると輸出業者、農家が語っている。

復活してきた感のある需要と世界的な需給バランスで今シーズンは不足が発生するだろうという予測がある中で、一方では先物カカオ市場では投機筋からの買いポジションが2006年以降で最大になっており市場価格を上昇させている。

『欧州からの需要は非常に強い、生産は需要に追いついていない』同国の第2の港であるサンペドロを拠点としている輸出業者は話す。

『1月以降は、どんな収穫状況になるか分からない。十分な数量のカカオが出来ないだろうという声をよく聞いている。私達は輸出業者として今シーズンは、昨年より多くのカカオ豆を買い付けて長期間の需要をカバーしなければならない』

コートジボワールは大よそ世界全体の生産数量の40%を占める。

同国の2013/14カカオシーズンは10月2日に政府の農家最低買い取り価格が10月～3月のメイン・クロップに対して、750 CFA francs (\$1.53) でスタートした。

『我々は、今週ずっと農家に対してキロ当たり 810 CFA francs を払い続けてきた。10月の間は760-790CFAだった』西部の都市である Soubre に拠点を構える欧州系の輸出業者の買付け担当マネージャーは言う。

今シーズンの集荷ペースは昨シーズンを大きく上回っており、輸出業者筋の計算では 11 月 10 日までに 270,000 トンのカカオ豆が集荷された模様である。昨シーズンの同時期までの集荷数量は 192,000 トンであった。

しかしながら、先の買付け担当マネージャーは彼らの顧客を満足させられるかどうかについては非常に悲観的であった。

『顧客は、ある一定数量まで集荷をするようにとプレッシャーをかけてくる。十分な数量が集荷できるか確かではない。今は我々のトラックがサンペドロ港についたら直ぐにそのまま欧州へ輸出されるよ』彼は言う。

また、シーズン後半に収穫されたカカオ豆が政府の設定している品質基準に達しないのではないかという懸念により輸出業者達が一斉に新物の早い時期に収穫されたカカオ豆を買い付けようとする動きに繋がってしまっている。

沢山の農家達が 1 月からの同国のカカオ豆の収穫が良くないのではないかと懸念は現実になるだろうと考えている。『12 月から後は十分数量のカカオはとれないであろう、このエリアではこれまでの収穫数量も決して多くない』西部地区の Bouaffle という都市のカカオ生産者組合のマネージャーは言う。

一方、沿岸地域のサンペドロ地区の農家、輸出業者、カカオ磨砕業者は大量のカカオ豆がまだ農園に収穫されずに残っていることに心配をしていた』

『昨シーズンに比べると、今の段階で既に成熟したカカオポッドの数の割合が非常に多い』ある農家は言う。『一般的には、カカオは収穫の最初の 3 カ月の収穫数量が非常に多い時は、その後の落ち込みが非常に大きくなる』

今週の関連記事①

オーラム社、豪州のアーモンド農園で 200 万豪ドルのセール&リースバック契約締結(11/13)

シンガポールのソフトコモデティティ商社であるオーラムインターナショナルは同社がオーストラリアに所有するアーモンド農園に関して、複数の投資家に対して、200 万豪ドル(≒186 万米ドル≒186 億円)の“セールス&リースバック”契約を締結したことを発表した。

この取引によりオーラム社は 200 万豪ドルのキャッシュを受け取り、課税後のキャピタルゲインとして約 45 万豪ドルを計上出来る予定。

同社は、兼ねてより同社の株主より負債額の圧縮に対してのプレッシャーを受けていた。

(\$1 = 1.0734 Australian dollars、\$1 = 100 円にて換算)

セール&リースバック契約とは・・・

自社の所有する資産を、投資家など外部に販売すると同時に、その販売先から資産の使用権をリース契約にて行う手法のこと。資産を現金化することが出来、且つ自社の資産は費用化可能なリースとなる為、キャッシュフローの改善に貢献出来る。

今週の関連記事② ; 「T P P 輸入枠」の設定浮上 = 重要品目の関税維持で一政府(11/14)

環太平洋連携協定 (T P P) の関税撤廃・削減交渉をめぐり政府内で、コメと麦、牛肉・豚肉、乳製品、砂糖・でんぷんの重要 5 項目の構成品目 (全 5 8 6 品目) などの関税維持を目指す方策として、一部の

品目について一定量まで無税か低関税での輸入を認める数量枠を設ける案が浮上してきた。政府は、2国間交渉で米国など他の交渉参加11カ国の関心を見極めた上で、数量枠の具体化を検討するとみられる。

検討課題に浮上した輸入数量枠は、TPP参加国に一定量を限度に通常より低い関税率や無税での輸入を認め、それを超える輸入分には通常の高関税を適用し輸入を抑制することになる。

輸入枠の設定は、対象品目について日本市場への一定の参入機会をTPP参加国に与える譲歩となる。しかし、TPP交渉は関税の全面撤廃を最終目標に掲げており、輸入枠の設定で日本が関税撤廃要求をかわせるかどうかは不透明だ。

輸入数量枠は「関税割当制度」とも呼ばれ、コメではウルグアイ・ラウンド（多角的貿易交渉）の結果として設定。現在はミニマムアクセス（最低輸入量）米として年間77万トンの無税輸入枠を設けている。また過去に結んだ経済連携協定（EPA）では、農林水産品で計47品目に関税割当制度を導入。これによりTPP交渉にも参加するメキシコとチリに対し牛肉と豚肉で、ペルーに対し豚肉でそれぞれ低関税の輸入数量枠を設けている。

***特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております！！こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp